

突然襲う災害に備えましょう

市民に多くの被害をもたらした平成6年10月4日発生の北海道東方沖地震から15年が経過しようとしています。

政府の地震調査委員会が今年7月に公表した全国地震動予測図において、根室市は「今後30年以内に震度6弱以上の地震に見舞われる確率」が63.2%と、道内の中で最も高い確率であることが発表されました。

地震災害は、「いつ、どのように」襲ってくるかは分かりません。日ごろの準備を万全にすることにより、地震発生時に慌てずに行動できるようになります。

今号で、地震が発生する前の備えについて確認し、日ごろから家庭などにおいて防災対策については話し合い、一人ひとりが防災意識を高めましょう。



- ①食品（乾パン、缶詰など）
- ②飲料水（ペットボトルなど）
- ③貴重品（通帳、印鑑、現金、健康保険証、免許証など）
- ④医薬品（包帯、胃腸薬、風邪薬、普段服用している薬など）
- ⑤衣類（軍手、下着、上着など）
- ⑥その他（携帯ラジオ、懐中電灯、電池、防寒用品、毛布、缶切り、ナイフなど）
- ⑦乳幼児がいる場合は、粉ミルク、哺乳瓶、紙おむつなど

非常時の持出品用意

- ①家族が慌てず行動できるように、役割分担を決める。
- ②家の中の一番安全な場所を探して、確認しておく。
- ③非常持出品の点検と保管場所を確認する。
- ④避難場所や避難路を実際に家族で下見し、確認する。
- ⑤消火器具の点検、使用方法、設置場所を確認する。



- ⑥家族が離ればなれになったときの、連絡方法や集合場所を確認する。
- ⑦応急手当の知識を身に付ける。

家族で防災会議

近年に無い被害をもたらした平成7年の「阪神・淡路大震災」の死者6,434人のうち、4,831人が住宅・家具類の倒壊による圧迫死でした。家具類の転倒防止は、地震が来る前にできる備えの一つです。あなた自身や家族が地震の犠牲にならないように、日ごろから家具等の転倒防止のため次の対策を行いましょ。

転倒防止対策

- ①タンスや棚などには、L型金物や突っ張り棒などの転倒防止器具を取り付ける。
- ②家具の転倒が考えられる方向では就寝しない。
- ③家具は、転倒により出入口が塞がれない位置に配置する。
- ④食器棚は、扉に留め金具を取り付け、食器の下にタオルを敷くなどし、中身が飛び出さないようにする。
- ⑤冷蔵庫や電子レンジの家電製品は、メーカーに確認のうえ、製品専用の転倒防止金具等を取り付ける。



緊急地震速報

「緊急地震速報」は、地震の発生直後に震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して震源や地震の規模を直ちに推定し、これに基づいて各地での主要動の到達時刻を予測し、可能な限り素早く知らせる情報です。

テレビやラジオ、携帯電話等により緊急地震速報を見聞きしたときは、周りの人に声を掛けながら“周囲の状況に応じて慌てずに、まず、身の安全を確保する”ことが基本です。

次のように対処しましょう。

【家庭での対処方法】

- ①頭を保護し、机の下など安全な場所に避難する。
- ②慌てて外に飛び出さない。
- ③無理に火を消そうとしない。

【自動車運転中の対処方法】

- ①慌ててスピードを落とさない。
- ②ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促す。
- ③急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とす。
- ④大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止する。

